

---

# イノチノハナシ

井川潤

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

イノチノハナシ

### 【Nコード】

N4644F

### 【作者名】

井川潤

### 【あらすじ】

命に関する短編小説です。小中学生、高校生、社会人・・・いろいろな時代、世界の中の1人1人の命の話。

## 世界の終わり

今日の夜、九時二十三分に世界は終わる。

誰か有名な預言者がノストラダムスのことを言っただけで視聴率を取ろうとしたわけでも、四月一日のホラ吹きでもない。

なぜか人は、そのことを知ってしまった。

「それで、何をしたい？」

教壇の上で僕らの担任である中村がそう言った。

何をしたい？つまり中村は、最後の一日をどう過ごしたい？と聞いているのだ。

僕はふと周りの席を見渡した。真剣な目で中村を見つめている生徒や、泣きじゃくって隣の席の生徒に背中をさすってもらっている生徒、もはや学校にも顔を見せない生徒など珍しくは無い。

「なにか最後にしてみたいこと。何か無いのか」

中村は生徒たちに優しく問いかけている。

人間というものは死ぬ間際に本当の自分が出るものだ。僕らの担任である中村は学校での生徒の評判は底辺だった。中村は僕らの中学に二十年以上勤めていて、人生の約半分を教師として生きている。授業前の大して面白くないトークや、黒板の字の下手さや、生徒をすぐ殴りつけるなどで、生徒の間では嫌悪の対象となっていた。

それに引き換え、去年この中学に配属された新任教師は、今風の髪型やモデル張りのスタイルのよさ、授業の合間の小話など、どの生徒にも人気の教師だった。

『だった』・・・つまりもういないのである。その新任教師は。

一ヶ月前、世界の終わりのニュースが一斉に全ての報道から流れた。一週間ほどの混乱で、安定を取り戻した日本は、日本の行政は世界に誇れるものだ。ということを変更して世界に認識させた。・・・

今とあつてはどうでもいい話だが。

そのニュースが流された翌日、その新任教師はどこかに消えた。いわゆる『蒸発』というやつだ。

その日の朝礼。もはや教師も生徒も三分の一程しかしかいなくなつた体育館で、中村は叫んだ。

『俺は世界が終わる一分、一秒前までお前らのそばにいてやるからな!』と……。

その後も教師たちが何人も辞めていったが中村は一日も休むことなく学校に来つづけた。もはやこの学校の教師は中村だけだった。

「何か最後にしたいこと。何でもいいんだ。本を読みたい、お菓子が食べたい……なんでもあるだろう?なんでもいいなさい。先生が出来ることなら何でもやってあげるから」

中村はその後、生徒たちはずっとそう言っていた。『最期に何かやりたいこと』本当に最後になると何も浮かばないんだ。と感じた。

「じゃあ、圭一。お前が決める」

中村は急に僕のほうを向いてそう言った。

「え……」

「お前が決めたことをみんなでやるんだ。責任重大だぞ」

僕はその時にはもう何がしたいか決めてあつた。

「僕は……先生の話が聞きたいです」

「……俺の話?」

「そう。先生の話。いつも授業前にやってくれているやつ」

「本当にそれでいいのか?もつと何かあるだろうに……」

「先生の話が一番です。先生のおかげで今まで死ぬということ意識しないで生きられたんだから。他の奴らもそう思ってますから」

僕がそういうと周りから無言で拍手が飛んできた。泣いていた子達も、おしゃべりをしていた子達もみんな中村に拍手をしていた。

「……そうか。じゃあ今日は取って置き話をしようかな」

そういうと中村は話し始めた。話の内容はよく分からなくて難しかったが、何故か気持ちが悪く落ちていくような感じがしていた。

それから十二時間と十四分三十二秒中村は話し続けた。  
世界が終わるまで……。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4644f/>

---

イノチノハナシ

2010年10月9日22時54分発行